寺報
得源寺

第６号
発行 ＝ 真宗
大谷派得源寺
住職大橋友啓
☎0767-68-2096

お寺は誰のもの？

住職　大橋友啓

現在の得源寺は一八六三（文久三）年に建てられたそうです。今から約一六〇年前に誰が何のためにどんな思いでこんな大きな建物を建てたのでしょう。

ひとりや二人の思い付きで実現できるものではなかったはずです。影が多くある柱を見ると、ケヤキの材料をそろえる苦労もあったろうにそれでも建てようとした人たちがいたのです。

私がこの寺に生まれて七〇余年になろうとしています。その間に、本堂の屋根替え、東西の雨戸、向拝の大戸、内陣の内装や建具も変わりました。少しづつそれぞれの時代にあった修繕を繰り返しながら寿命を延ばしてきたのです。老朽化して行くものに手をかける歓びを持っている人々にお寺は支えられてきたのだと思います。ここにお寺があることを歓ぶ人たちが一六〇余年のお寺の歴史を作ってきたのです。

特に、得源寺は門徒さんだけでなく多くのファンによって支えられて来ましたから、お寺は門徒のものというよりもそこに寺があることを歓ぶ人たちのものなのだと思います。

いま、病院に入院しているお年寄りの間に飛び交う話題の中に、お寺の悪口が多い事に驚きます。私の、母は九一歳になる前坊守ですがとても相部屋に入ってもらう気にはなれません。飛び交う話を聴いているだけで病気が悪化しそうです。なぜそんな悪口を言うのか、大方は金銭的なことばかりです。

得源寺の門徒さんにはそんな人はいないと思います。なぜなら、収めていただいているものがないからです。

身内を亡くしたことを機縁にして、当寺で末代に渡って一年に一度の読経をするお約束でいただいている「永代祠堂料」が唯一、門徒さん個人からお寺に収めていただいているものです。強制はしていません。

祠堂というのは自らの帰依所であるお寺の本堂を守って行く修繕費です、当寺ではそれを積立てておいて本堂などの修繕工事の費用に当てています。

また、お寺から本山に収めなければならない「御依頼金」などは、各ご門徒さんの家でおつとめさせていただいている報恩講のお布施の中から支払っています。その事は、おつとめした際にお渡ししている披露状に明記してあります。現在、報恩講はご門徒の約半数が勤めています。出来れば全ての門徒さんで本山護持をしていただきたいものです。

「集めない」と文句を言う人もいたり、人は色々です。「お寺は誰のものか？」寺のことを話題にしてくれることが一番大事なことだと思います。

総代会開催報告

九月五日秋の祠堂経会満座後に総代会を開催。

本年度の本山からの御依頼金がコロナ禍により約二〇％が減額されたと報告があり、恒例の引上会はお仲間寺院の参り合いは行うが「おとき」の接待は中止との申し合わせがあったことも報告された。これに伴い、今年の御正忌報恩講は中止とした。

また、前坊守寄進による本堂の外壁工事と本堂内白壁隔離箇所の修繕工事の施工に伴い、本堂の東西雨戸の取り換え工事実施の承諾と費用は永代祠堂積立金から支出することを確認いただきました。

（写真本堂裏）

お知らせ!!

（二〇二〇年一〇月～二一年一月）

報恩講引上会（ほうおんこういんじょうえ）

親鸞聖人の御命日をご縁とし私たちの御本山でつとまる報恩講（一一月二二から二八日）を、当寺では毎年先取りしてご案内の両日に、「引上会」という名称で行なっています。

近隣の寺院一〇ケ寺のご住職方が揃って荘厳な正信偈の大逮夜が初日のメインです。

今年の初日は日曜日です。是非とも市長選の投票を済ませてから、お参りいただいて迫力満点の声明を体感して下さい。

とき　一〇月二五日（日）
　　から二六日（月）
　　午後二時お始まり
　　四時半下向

お磨きのつどい

報恩講をおつとめするに当たって仏具のお磨きを行います。年齢や性別は問いません。ご協力いただける方はどなたでも歓迎します。ついでに輝きを失ってしまったご自宅の仏具があったらお持ちいただいて一緒に磨いてはいかがでしょう。

とき　一〇月一七日(土)
　　午後二時から
ところ　得源寺本堂

今号の脳トレ

大
氷 □ 具
音

今回も、十字クロスに挑戦してください。
真ん中の□に文字を入れてください。

答えは次号です。

「門徒呼び」中止!!

引上会に参詣いただいた門徒さんに「おとき」の接待を行う時間が取れないので、日を改めて御正忌報恩講に「門徒呼び」と称する精進料理の接待と法要を続けてきましたが、コロナ禍による食事の提供自粛で「おとき」を中止することにしました。

法要だけなら、既に引上会で実施済ということなので「御正忌報恩講」そのものを中止することにしました。

除夜の鐘

とき　一二月三一日大晦日
　　午後一一時頃から突き始めます。

修正会（しゅうしょうえ）

元旦早朝六時から年の初めのお勤めがあり、法要に続いて庫裏で住職が年賀を受けます。

田

前号の答えで～す。

賽銭籠は語る！

本堂の壁を修繕するのに壁に掛けてあった賽銭籠を降ろした。三本あった籠のひとつに「歓喜光院殿御越年」と墨で書かれていた。よく見ると昭和一六年一月と柄にも書いてあり、底には寄贈した人の名前も見える。

昭和一六年は称蓮寺さんが会所の年である。なぜ当寺にあるのか？「この年の御崇敬は称蓮寺さんの本堂に入りきれないほどの参詣があり、急遽あふれた参詣人を得源寺で受け入れることになり、布教使と参詣人が移って来た。」と先々代坊守が語っていたことを先代坊守が覚えていたことで謎が解けた。

役員に、賽銭籠を持たせて得源寺行きを采配した同行の機転に感心するばかりである。賽銭籠はそのままになり八〇年の時を刻んで来た。称蓮寺さんにあったものは焼失したのだろう。（釋友啓）